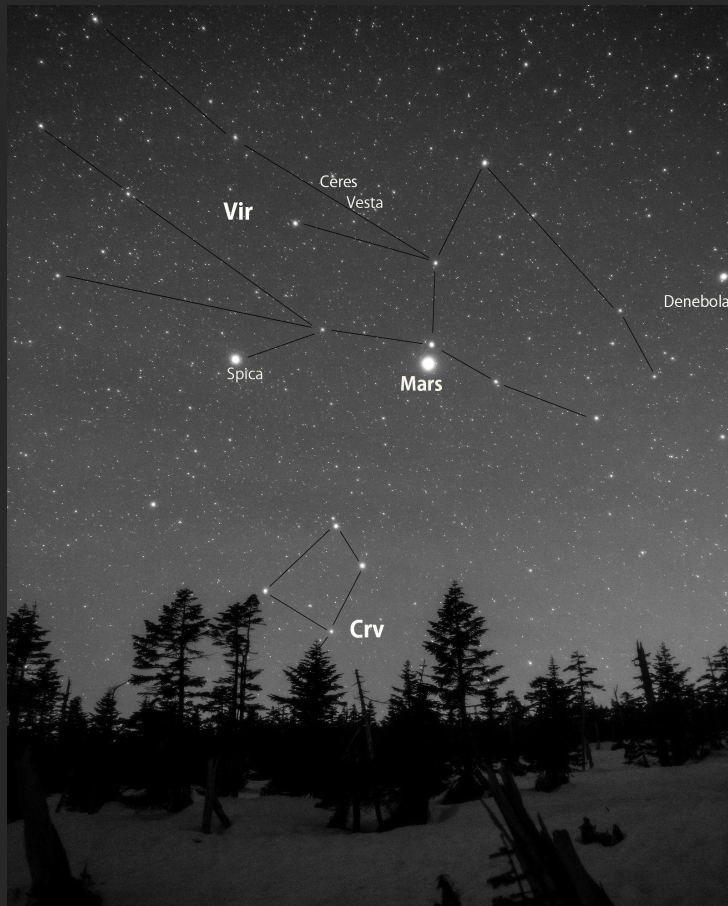


天文教育 2014 5

Japanese Society for Education and Popularization of Astronomy



<論文> 「知の循環」の文脈での対話型イベントの実施事例の報告

<報告> 2014 年天文学会ジュニアセッションの報告／

2014 年春の天文教育フォーラム／Astro-HS 全国フォーラム

2014 開催報告／2013 片倉台小学校観望会

天文教育普及研究会

本誌原稿募集のお知らせ

編集部では下記の原稿を募集しております。会員の皆様からの活発なご投稿をお待ちしております。

1. **原著論文**：天文教育・普及について、オリジナル性があり考察が優れ、学術論文として主な内容が印刷発表されていないもの。表題、アブストラクトには英文も付けてください。
2. **解説記事**：天文学や天文教育・普及に関する解説・紹介記事。分量は刷り上がりで6～10ページ程度。
3. **各種の報告など**：支部会やワーキンググループの活動報告、各種のイベントの報告、また天文教育・普及に関する授業の実践例など。分量は刷り上がりで2～4ページ程度。
4. **書評**：天文学や天文教育・普及に関する書籍の紹介。分量は刷り上がりで1ページ程度。
5. **会員の声**：会員の皆様からのご意見・ご感想など。分量は刷り上がりで1ページ程度。
6. **表紙の写真**：タイトルと400字以内の「表紙の言葉」とともにご投稿ください(写真のみでも構いません)。
7. **情報コーナー(各種会合・イベントの告知など)**：支部会やワーキンググループの会合、また天文学に関する各種の会合・イベントなどの情報。分量は任意ですが、スペースの関係で適宜省略させていただく場合があります。会合・イベントの開催日と会誌の発行日(奇数月下旬)にご留意ください。

・**締め切り**は1～3は原則として奇数月末日、4～7は偶数月15日。投稿先は post@tenkyo.net です。

・**広告掲載**を希望される方は事務局 (jimu@tenkyo.net) までお申込みください。掲載料はB5判1ページ ¥20,000-、半ページ ¥12,000-、1/4ページ ¥7,000-、チラシの折り込み ¥20,000-です。

本誌に掲載された記事は、1年後以降に当会ホームページ (<http://tenkyo.net/>) にてpdfファイルの形で一般に公開することを予定しております。インターネットでの公開に差し障りのある場合はご投稿の際にその旨ご連絡ください。

【編集委員会からのお願い】

『天文教育』の編集は、すべて会員からなる編集委員によって行なわれています。ご投稿の際には以下の点についてご協力いただけますよう宜しくお願いいたします。

- ・原稿の投稿は、原則として Microsoft Word ファイルでお願いします。
- ・執筆用のテンプレートがホームページ (<http://tenkyo.net/>) からダウンロードできます。できるだけこのテンプレートをご利用くださるようお願いいたします(執筆上の留意点なども記しています)。
- ・十分に推敲を重ねた完全原稿でご提出ください。分量や内容によっては手直しいただく場合もあります。
- ・提出データは必ず各自でバックアップしておいてください。
- ・Word 以外に一太郎ファイルやテキストファイルでも受け付けております。
- ・原稿のご投稿やご質問は電子メールにて、下記のアドレスへお願いいたします。

投稿先・質問先 メールアドレス：post@tenkyo.net

表紙の言葉

火星とスピカと小惑星

撮影日時：2014年5月7日 0h25m
カメラ：Canon EOS 5DMkIII, レンズ：Nikon AF-S
24-70mm f/2.8G ED (24mm として使用)
設定：ISO=4000, 20秒露出(固定)
撮影地：志賀高原(2217m 地点)

5月の夕暮れ時、南の空に赤く明るい星が見える。火星である。火星は、今年の4月に地球に最接近したばかりで、いまだに、その輝きは怪しい限りである。いま、この明るい火星の隣に、青く輝く1等星がある。スピカである。この火星とスピカの色の対比が実に美しい。デジタルカメラで

は、ディフューザー(ソフト系フィルタ)を使用して撮影すると、周りの星たちとともに両者の色の違いがはっきりわかる。この火星とスピカを底辺とした三角形の位置に、2つの暗くて小さな星がある。準惑星のケレス(Ceres)と4番目の小惑星ベスタ(Vesta)である。撮影時の明るさは、それぞれ7.3等星と6.1等星であり、広角の固定撮影でも、(プリントでは見えないかも知れないが)両者がはっきり写し出されている。この小惑星、7月上旬には、見かけの離隔がわずか10分程度まで接近する。

火星とともに、この2つの小惑星の移動の様子に、ここしばらく目が離せません。

撮影と文：大西浩次